

大渦卷奇談

天候で、風も程よく吹いてゐるし、どうしてもそんな暴風が来ようとは思はれない日でした。いつもより殊に大漁だったので、喜んで沖の島を出ておひてには張つて、どんどん歸りかけたときです。急にその風がはつて、ヘルゼツゲンといふ山からドツと吹き下ろす風が、まるでさかまきのです。

こんなことはそれまで一度もなかつたので、私は急にむねがドキキ始めました。こりやけいな、引返さうか、と言はうとして、振りむくと水平線の上に、こゝも珍らしいほど真赤な雲が、もくもく出てゐます。帆旗のかなしき、逆め風ではもう動くことは出来

折れて、吹き飛ばされまいとそれにつかまつてた弟と一しよに、船の外へ飛んでしまひました。

もう甲板は浪の下でした魚を入れる穴の口が閉めてなかつたら、船はとうしづんだはづです。私はやつとばしらの根元にあつた大きなてつわにつかまつて流されるのをふせいで、でまふ。兄はどうして流さかしたたものか、まるで夢中で黒ひ附きません。

そのうち、やつと兄の方へはいよつて来ると、私が、風と浪のしぶきの中で呼びました。「渦巻が来るぞー！」

では我々をきまつて、まきこはさきまつてゐます。しかしその風にその小さな

米田

私は娘時代より母親から『女は子供三人産みつにばに育て上げなければ兩親の有難さ又一人前の女とは云へませんよ』と毎日の女のように言ひ聞かれましたが、當時は夢事のようにしか聞いて居りませんでした。が、子供を持つ身となつて始めて母親の言葉がはつきりとわかりました。

私は既に五十七歳となり男子三人女子五人合せて八人の子を持つ母親であります。子供を大きくした方面ではまだ一人前の母親とは言へませんと思ひます

男子三人に嫁を買ひ娘三人他家に嫁がせてはじめて一人前の母親になつたと言へるのではないかと思ひます

世間によく有り勝りますが長男息子の嫁さんと姑さんは面白く居かない家が良くあるやうに思われ

何故かと申しますと最初に貰つた嫁さんで経験が少いからです

こゝに私くしの知つて居る一つの例を上げて見ませう

長男に嫁さんを貰はれたは出来が應る。いゝ嫁は嫁は嫌だ。自分は今行く末を男に掛かるのだと世間の人に言ひ勵めて居られた

やがて次男も年頃になり嫁さんを買はれましたが次男の嫁さんは心は良いが、手が枯れぬ氣がきかない

結局兄嫁より落ちる事になりました

港！サン

一讀者生

目をつぶつたが、なかなか洗ひません。また目を開けて見ると、船はすりばちのやうにへこんだ渦の中途の非常にいきほひで走つてゐます。海は我々のすつと上にあります。

もうすべての望みはすてゐました。そして目の廻るのをこらへ、私はしづかに此の自然の不思議な現象を見ようとした。たしかに絶望が心に落ちつた。頭がバカになつてゐたのも知れません。

船は何十回その大渦のうちがわを廻つたか、かれこれ一時間もぐるぐるぐるぐるやつたでせう。そしてだんだん渦の中心へ近づいて行くのです。もちろんそれ

何處から嫁さん貰つても自分の思ふ通りに行かない。結局最後は長男の嫁さんと一居に居られますが、そんな事なら最初から長男の嫁さんを可愛がらねばならない。は注意してやつて貰ひて上げて貰ふのが自分責任である云ふ決心居られた方が良かったと思ひます。長男に掛かゝ家を繼がせて行くのが日本人としての道であり又祖傳代々からの傳統で有ると私は思ひます。自分の息子には常に言ひます、自分で居ます。自分の産んだ嫁さん、中々思ふやうに行きませんのに人様かへに頂けません。自分の思ふやうに嫁さん、尙の事自分の思ふやうに行きませ

つばな嫁にてやるのだと云ふ氣持で必から湧いて来るやうでなければ良き母親とは言われませんでせう。美点は氣が粗らばかり探して出し世間の人に言ひ廻れて歩くだけでは権威としての價值はないと思ひます。自分の娘も世間の人様から見れば透ぬかりでござから、娘を他家にとつて貰つて貰ふのが一人位出したのうけ娘を買つて頂いたに難難さはありません。ようある人から聞いた話ですが、長女嫁は婿はくしめにくく勤くけちくしめ、勤くばかりで遊びにも出さぬ。あやは娘は苦勞ばかりです。次女はよく良い男に出したと言ふ氣持

るのはまたない楽しみである。昔ならこちらに棧橋が今本館見物と云うところだが、今日は葉は葉の方向を轉じゴンザガ海岸の遊覧地へと電車の入るなるゴンザガが言つてゐなく近代装飾を施したたゞなブライドで、その清純な美觀は蓋しサントスの誇りである。海に面したバンに腰を下ろし、遙かに大洋を見れば、山嶺なすとも水天影瀟々一葉といふところだ。折から黒煙を吐いて一隻の汽船が港で往く、あれが東つくる船であつてわが懐しの祖國があるのだ、と思ふのみ無限の感慨にふける。夕なれば、夕陽斜にうけうねる大波小波は金色に化すその中へ探險の男女が、老若相問わす喜としてたわむれてゐる様は、正に自然と交々である。自轉車を乗過す者、白砂の上に腹這ひになつてゐる者、スエーデン式操縦をやつてゐる者、式操縦を見下し陸に上る者

しかしまだ私は、水の中にいるのに、気がつきません。再び目を開いて私は、ちょうど形の木の月夜に照らされてくぐったのと同じ光景を見ることができました。ふと気がつく、まだ返りてゐるのは私の船だけで、木柱や木枝や、簾や、その他いろいろの物が、我々の上にも下にも揺かれています。そしてよく見ると、それが同じに廻されながらも、その速さはちがふのです。

それを見るに、急に私はまた目をへ出しまし。若しや、といふ希望が起つたのは、その廻されたのいはん近いものを見定て、それに飛びついで流れてゐた

私は船の中にあつた水だのとこゝに飛び込込決心をしました。その考をどうして兄にもつたへやうと苦心しましたが、彼はたゞ頭を振るばかりで、ぼんやりと、そして船にがついてゐる。もう一分の餘裕も出来ません。渦中心はどんどん近くなりまして、二人は死ねん、一人は救助するか? 私と幸兄がやむねして、くはんと腹り、心をおこにて自分たつるを抱いて船外へ飛び込んだのです。と、間もなく船は兄も我共、うづの中心へつきました。落ちては溺れ、激揚で引上げては、息を吹き返しました。しかし一夜の恐怖御覽の通り現に死んでしまつたの、確ひとて私だと思ふ者はありませんでした……。

がせに續で有つたが、二三人子供が出来た頃から惡逆する者が、娼婦といふ事もある、賭事をする、自分の身の身から産んだ子なら思ふ存分に貰ひ聞かす事も出来たが、娼婦といへば餘りの事も云へませんがそんなうと私、話さへませんがそれなれば結局色は黒くてはいつてくてもいへない、働いてくれるやうな男を選ぶのが一番危険性のない何時も安心して居られますからね、と、ところが、一入娘を連れて居られた親達を、経験がなく理想ばかり高めて最後には良縁がなく晩婚となつた方がよく有やうに思はれます

子供も早く産んで圓滿に暮らして居りますので此の上ない事と只良慮して居る次第であります

長男、三年嫁を買ひに決まり、次男、男の縁談が決まり、次女、選んで結婚式を上げたいと思ひます、末の娘を一人づつがせば私の責任終結なのですが、まだ四五年先の事です

十四年前からの心臓病も最悪は、そう激しくなると今日ではめつくりと弱くなりました

事を長々、参考にもならない事を、書きましても、私、實際、経験した事、思つた事を書いただけの事に過ぎないのです

昭和廿一年三月一日聖市病院にて書

美は宛ら希臘彫刻のようであり、妙齡の娘下らの均整のとれた姿ヴエナスの女神を想はせる。

◇

彼らが家業の苦勞を忘れ一日の休日を利用して、こうした自由の天地に樂むことは何んといつても羨しい限りである。吾々日本人は年甲斐なく、この土生土長で脱し、時にこうした氣分に切實に感ずるものであらう。彼はアウダス・遊覽地である。

覗いた、流石はペリススタブルジョワ達の別荘地だけかつ豪華な設備がある。カノヱ園を愉むむる、甘いさへやきに酔ひしれる者、無限に金を使ふところだ、決して大衆の歡樂場ではない、だから日本人は絕對足を踏み入れないことが肝要。こんな考へ浮上るが、一方では吾々は日章族をひきかえして来る巨船を描きつゝ露市を新しめ、キエフ方面へ露足しので



 Nagib Elias
 & Sobrinhos
 お金儲けの上手な人なら
 必ず當店で良い品を卸の値段で
 御買ひになります
 布類、レタリヨ、毛布、其他是服類一切
 ナジベ・エリアス 吳服店
 聖市ビネイロス、テオドロ・サルバイオ街五六
 ミツワ旅館
 三坂トギ子

昔のエンポリオ
トスカーノ時代から
今のア・メトロポリターナ
の時代迄
日本人の皆様とは
昔からのお馴染
最新な柄に念入りに
仕立て
何處へ着て出ても
肩身の廣い品ばかり
▽男子用洋服一切
紳士用、少年用
▽御婦人用タイヨール
▽御子様、赤ちゃん用服
▽着て着心地よく
見て愛情の湧く可愛い
洋服を御子様に是非一着
御薦めいたしませう
ア・メトロポリターナ
(元エンポリオ・トスカーノ)
聖市ゼネラル・カナルイ・街
二二五—二三五
支店 サン・ベント街二七二

za,
illo

NOTÍCIAS DO BRASIL

Diretor-Interino e Proprietário: SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redação, Administração e Oficina: Rua Caramuru, 63 — Telefone, 2-2837 — Caixa Postal, 3730 — São Paulo

N.º 2.720

ANO XXXI

SÃO PAULO, 9 DE JUNHO DE 1948

Circula às Segundas, Quartas e Sextas

Desenvolvimento da indústria do cimento

RIO, 1 — De conformidade com os dados do Serviço de Estatística da Produção do Ministério da Agricultura, a indústria do cimento alcançou sensível desenvolvimento nos anos de 1946-1947. Em 1926 o país importava 392.322 toneladas de cimento, sendo que a sua produção não excedeu de 13.382 toneladas.

Entretanto, em 1946, a Indústria nacional produziu 826.382 toneladas, e ao ano passado 913.525 toneladas. O valor da produção em 1946 foi de Cr\$ 343.839.000.000,00 e em 1947 de Cr\$ 423.827.301,00. A produção de cimento nacional, no ano passado, provém dos seguintes Estados:

São Paulo, 356.948 toneladas; Rio de Janeiro, 319.700; Minas

Gerais, 156.804; Pernambuco 59.475; Espírito Santo, 12.733; R. G. do Sul, 7.555 e Paraíba, 312 toneladas.

Apesar do desenvolvimento da produção de cimento, esta ainda não atende integralmente às necessidades do país.

A procura do homem de dez mil anos...

Belo Horizonte — O homem pre-histórico, componente de uma raça extinta, que viveu há mais de 10.000 anos na região onde se levanta o município de Pedro Leopoldo está tendo os seus fósseis meticulosamente estudados por uma expedição de professores da Academia de Ciências de Minas Gerais. As pesquisas, cujos resultados deverão ter re-

percussão científica internacional, realizam-se no interior de 4 cavernas, sob o comando de um paleontólogo, professor Harold Walter, um antropólogo, professor Arnaldo Cathoud e um arqueólogo, professor Anibal Matos.

ESTAVA ERRADO

LILE, França, (U. P.) — O electricista amador Eugene Delobelle estava convencido de que uma corrente de 6 mil volts não mataria ninguém. Por isso, enrolou-se em fios descobertos cujas pontas foram ligadas a um cabo de alta tensão. Delobelle estava errado.

Organização Internacional de Aviação

Rio, (Asapress) — Na qualidade de presidente da delegação brasileira à Segunda Conferência da Organização Internacional de Aviação, interju-

para Genebra, o brigadeiro Hugo Cunha Machado, presidente da comissão de estudos relativos à navegação aérea internacional e sub-chefe do estado maior geral. Como delegado seguiu Antonio Paulo Moura.

O reconhecimento do estado de Israel

Rio, 4 (Asapress) — O Itamarati, consultado sobre se era verdade que ia ser reconhecido pelo Brasil, o Estado de Israel, esclareceu que por enquanto não, informando que o governo brasileiro prossegue examinando o caso e não deseja precipitar.

Automovel encomendado pelo rei Abdullah

RIO, (Asapress) — Segundo um jornal local, o sr. Renato

de Almeida chefe do Serviço de Imprensa do Itamarati, informou que o Ministério das Relações Exteriores adquirira, nos Estados Unidos, um automovel, que fora encomendado pelo rei Abdullah, o qual, depois, desistiu da encomenda. Esse automovel servirá para a recepção ao general Peron, por ocasião de sua visita ao Rio de Janeiro.

PTHALYLSULFACETIMIDE

É o enorme nome de uma nova droga descoberta nos Estados Unidos

Nova York, 2 — Os cientistas Harry Seneca e Edward Henderson, doutores da Faculdade de Medicina e Cirurgia da Universidade de Columbia comunicaram à sua entidade que, após extenuantes esforços, conseguiram descobrir uma nova droga de grande

efeito no combate ao colera, à disenteria e outras infecções intestinais. Essa droga foi por eles batizada com o nome de "phthalylsulfacetimide".

Participação dos empregados nos lucros das empresas

Rio, (Asapress) — O sr. Paulo Sarazate, na sessão da Comissão de Legislação Social da Câmara dos Deputados, apresentou a redação final do projeto que regula a participação dos empregados nos lucros das empresas.

座喜味法律事務所
DR. SEITOKU ZAKIMI
Advogado e Tradutor Público
Praça da Sé, 23, 5.º and. sala 515
Tel. 2-2837 - Caixa Postal, 3730
São Paulo

幕末 秘史 花の茶 (78)

女に情い女 (二)

能登守が少将が宮家御前... (transcription of the serialized story text)

五級品 (トナリ)		四級品 (トナリ)		三級品 (トナリ)		二級品 (トナリ)		一級品 (トナリ)	
米	上	米	上	米	上	米	上	米	上
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

現代に 必要なる心構

越村由紀子様に 送る

「月と人生」を拜讀致しまして... (transcription of the letter text)

作文

中央模範学校

コロンビア模範校

玉城リリア

巡禮奇譚

南洋

「古事記」の書かれたといふ大昔の本は... (transcription of the story text)